



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

- ホームページ URL <http://www15.onn.ne.jp/~oikawahp/>
- Eメールaddress oikawahp@oa.mbn.or.jp

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0 14

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 15 2008年7月 発行

基本理念

及川病院のめざすこと、その役割と大切なこと

親切

私たちは親切な対応とわかりやすい説明を心がけ、患者様の身になって行動しています。

信頼

私たちは患者様の一日も早い快復、社会復帰を願い、信頼され、心の通い合う医療に努めています。

専門

私たちは乳癌の診断から治療、緩和ケアまでを担う専門病院として、女性の生涯にわたる心身の健康を総合的に守ります。

進歩

私たちは常に新しい医療・療養環境を学習し、分析・反省を繰り返し、より優れた医療の提供を目指し進歩し続けます。

『医療制度を考えるとき』

今世間では、「後期高齢者医療制度（長寿医療制度）」なるものが話題となっており、言葉だけなら知らない人はないというほどでしょう。

医療制度は2年に一回のペースで改革されており、本来ならば受診される患者様や医療機関の運営に適したものであるべきですが、ご存知のように「医療費抑制」が最大の目標であるため、私たち医療機関の者にとっても思うような内容にはなりません。今回の改革の大きな柱はもう一つあり、検診制度が大きく変わったことです。いわゆるメタボリックシンドロームに着目した「特定健康診査」と「特定保健指導」が実施されることになりました。確かに病気になる前に健康に気をつけようというのは大変良いことで、それだけならわざわざ人から言われなくてもわかっていると思うのですが、どうも国は「病人」を出さないことが「医療費抑制」に繋がると考えたようです。個人の健康管理にまで国政が入ってくるのはどうかとも思いますが、制度の良し悪しの前に説明不足と準備のなさが今年は顕著でした。4月1日から新しい制度が始まるわけですが、私たち医療機関への説明会は開始の直前、私たちがきちんと理解する前にスタートしたことは否めません。また患者様へのご説明は医療機関へ任せられており、どんなに複雑でわかりにくい制度でも作った厚生労働省が説明したという話は聞きません。今回の「後期高齢者医療制度」の問題がこんなに大きく取り上げられたのは、おそらく説明不足が最大の原因だったように思います。

「説明」は相互理解の源であり、私たちが医療行為を行なうときも同じです。患者様が不安に思っていることは何か、わかりにくかったことはないかなど、自分達の一方的な押し付けにならないように努めなければなりません。私たちと患者様とが協力していかなければ良い治療は行なえないといっても過言ではないのです。

制度を議論するよりも、自分達の「説明力」はどうなのか自らを振り返ることとなった今年の制度改革でした。



平成20年4月1日より後期高齢者医療制度が開始されました。

～給付・自己負担の割合はこれまでの老人保険制度と同様です～

平成20年4月1日より**後期高齢者医療証**をご提示下さい。

- * 対象者は75歳以上（一定の障害がある場合は65歳以上）の方となります。新しい保険制度への加入について改めて手続きを行って頂く必要はございません。
- * 保険料は被保険者全員が納め、原則として年金から天引きとなります。
- * 医療機関での自己負担額はこれまでの老人医療保険制度と同様に、一般の方は1割、現役並み所得者は3割です。



75歳以上全員対象

白日 高歩

白日高歩です。現在福岡大学の総合医学研究センターの教授ですが、外科医で特に胸部外科領域を専門とします。今までにたくさんの肺癌を主体とした手術を行ってきました。現在はホスピス病棟の患者さんを対象とした緩和医療を学びたく、此の及川病院で勉強させて頂いております。及川先生を初めとして緩和病棟の看護師さん達の働きが大変素晴らしく、本当に敬服する気持ちです。

高山 成吉

本年度4月より、水曜日の乳腺外来を担当しています高山成吉と申します。平成8年に福岡大学医学部を卒業後、福岡大学筑紫病院、北九州医療センターで外科学を修練しました。専門は乳腺、消化器外科です。乳腺疾患（特に乳癌）は専門性の高い診断が必要ですが、手術療法以外にも、化学療法、内分泌療法、放射線療法と多岐にわたり、その期間も決して短くはありません。患者様がよく説明を聞き、理解して治療を受けていただくことが大切と考えております。長く付き合い、相互に理解を深められる環境作りをめざしています。お困り、疑問があればぜひ相談して下さい。よろしくお願いします。

新任医師のご紹介

藤原 智子

4月より緩和ケア病棟に勤務しております、藤原智子と申します。これまで福岡市や久留米市の病院で内科医として働いてきましたが、急性期病棟ではその忙しさのため、義務的に仕事をこなすような働き方をしてきたものでした。

しかし緩和ケア病棟では、より心のこもった丁寧な診療が求められ、これまでの自分を省みると同時に、新鮮さを感じております。

「人生の最期はこの病棟で過ごしたい」と、自分自身も思えるような診療を目標に頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

及川 将弘

はじめまして。この4月から毎週土曜日にお世話になっております、及川将弘です。医師になって8年目になります。長崎大学を卒業後、大分・北九州・諫早・佐世保の中核病院で一般外科と救急医療の修練を積んできました。現在は長崎大学で、乳がんの発癌機構の研究を行っています。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のもではなく病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」長崎大学開学の祖、ポンペの言葉です。この戒を肝に銘じ、「自分の家族だったらどうするか？」を常に考えながら診療にあたりたいと思います。

母の日乳がん検診キャンペーン

「親子でいっしょに、友達といっしょに乳がん検診に行きましょう」

乳がん検診に行ったほうが良いことは分かっているけど、ひとりでは行きにくい、何かきっかけが欲しいと思っておられる方は少なくないのではないのでしょうか・・・

そう考え、及川病院では親子や友人と一緒に誘い合って検診においでいただけたらという主旨のもと、お2人以上で一緒におみえになるとお帰りの際にお花やお菓子の引換券をプレゼントするというキャンペーンを行っています。

検診にお見えになられた方からは「キャンペーンのおかげで、娘と一緒に検診に来てよかった」などの声をいただきました。母の日キャンペーンとして5月31日までの予定でしたが好評につき、6月30日まで延長して実施しております。

最近ではマスメディアでも乳がんの早期発見を訴える記事をよく目にするようになりましたが、我が国の乳がん検診の受診率はまだ10%にすぎません。乳がんは早期発見で治癒率が上がる病気であり、乳がんの早期発見は乳腺専門病院の重要な使命だと当院は考えています。

決して他人事ではない乳がん。あなたと家族や友人のためにもご自分の問題として意識していきましょう。



栄養科おすすめメニュー

～栄養科おすすめメニューその①～

夏野菜の和風ラタトゥイユ

材料 4人分

茄子・・・2本
玉葱・・・1/3個
人参・・・1/3本
セロリ・・・1/4本
ピーマン・・・2個
赤ピーマン・・・1個
スッキーニ・・・1本
オリーブ油・・・大さじ1
濃口しょうゆ・・・大さじ1
みりん・・・大さじ1
かつお節・・・適量
ごま油・・・小さじ1



- 1 野菜をお好みのサイズに切る。
(※茄子やスッキーニは縦の縞模様に皮をむくと仕上がりがきれいです)
- 1 オリーブ油が野菜全体に回るように炒める
- 2 しょうゆ、みりん、かつお節を加える
- 3 フタをして弱火で約20分
(※野菜の水分で煮込みますが、焦げ付きそうでしたら水を加えてください)
- 4 水分がなくなったら、最後にごま油を加えて出来上がり♪
味が薄いようなら塩、こしょうで味を調整してください

☆野菜はお手元にあるものでOK
トマトや南瓜も相性バッチリ



（4）浸潤癌と乳癌の進展

乳管の基底膜を破壊し、乳管外に浸潤した乳癌は局所の周囲組織への直接浸潤、リンパ行性転移、血行性転移として進展します。

（a）局所進展は、はじめは乳腺の乳管外の間質組織（脂肪組織）に広がります。乳癌自体の性格と間質（宿主側の性格）の相互の関係により、癌の境界がはっきりした球形やラグビーの球のような楕円体から、ブロッコリーのような凸凹の形、さらには、松の根が延びていくような浸潤形まで、種々あります。したがって、乳癌が“しこり”として触れる場合も、パチンコの玉、金平糖のような形から、はっきりとした“かたまり”ではなく、境界が鮮明でない、あまり堅くない硬結として触れるようなものまで種々雑多です。これらは、病理学的（顕微鏡で観察したとき）には、それぞれ、充実腺管癌、乳頭腺管癌、および硬癌であることが多いようです。このような組織型の違いは癌の性格にある程度関係し、乳癌の再発や死亡に関係しています。なお、病理学的には、特殊型として、粘液癌、髓様癌、小葉癌、などがあります。

局所進展として、乳癌の浸潤が皮下脂肪組織やクーパー靭帯（乳腺組織を皮下や乳腺内で吊り上げている線維）に及ぶと、その表面の皮膚や乳頭が牽引され、皮膚陥凹や乳頭陥凹といった症状が出てきます。その初期には、えくぼ症状（dimpling）として、親指と人差指で“しこり”の表面を軽く寄せると、中央部にしわがよります。これは乳癌の診断法として昔から有名なものです。

さらに、乳癌の浸潤が皮膚に直接達すると、皮膚浸潤、皮膚の潰瘍が形成されます。特殊なものに、皮膚全体が発赤、腫脹し、オレンジの皮のようになる炎症性乳癌がありますが、癌細胞が皮下の毛細血管やリンパ管に侵入、塞栓するため、予後（生存率）が非常に悪いものです。

乳癌の浸潤が乳房の下部の筋肉、胸壁に浸潤すると、乳房が胸壁に固定され、さらに進むと、胸膜に達し、または胸壁全体が鎧（よろい）のようになります。

特殊な乳癌に、乳頭の乳管開口部に発生したパジェット（Paget）病があります。乳頭部が発赤、落屑し、湿疹のようにただれて、糜爛や潰瘍となり、滲出液や血液がみられます。

乳腺内にはリンパ管、血管が網状に豊富に分布し、間質に浸潤した癌細胞はリンパ管、血管内に侵入し、転移します。